

谷学  
大期連  
帯短

# つながるちから

第23回

人生で最も輝いた日々

社会福祉科 子ども福祉

専攻2年 赤羽 葵

私にとって短大生活は、「自分革命」を起こしたと感じるものでした。それは、私は良い人たちに巡り合ったことで、人として成長することができたからです。

言葉をもらい、ゼミ担当の先生は私の悩みを聞いて一緒に「自分を変える方法」を考えてくれました。そのおかげで最後まで実習を乗り切ることができました。

実習でいろいろな失敗をしたことで、不安を感じて保育者になることを辞めようと思いましたが、最もつらかったのは、子どもが「かわい」と思える感情がなくなってしまったときでした。そんな思いを引きずっていたので子どもと上手く関われなくなり、業務に失敗する度にさらに自信を無くしていました。

そして、最もうれしかったことは、実習最終日に子どもたちが私に抱き着いて泣きながら別れを惜しんでくれたことです。このとき、良い保育者になれたという気持ちでいっぱいでした。

短大での日々は、つらいことがあった半面、今までの人生の中で一番、色鮮やかな日々でした。

それでも、実習先の保育者



▶ 赤羽葵さん

の皆さん  
や短大の  
先生方か  
ら何度も  
励ましの

